

流通経済大学×松戸市「地域共生シンポジウム」

千葉県松戸市地域共生課 × 学校法人日通学園 流通経済大学

取組概要

流通経済大学と松戸市が連携し本年10月16日、流経大新松戸キャンパスで地域共生をテーマに市民参加のシンポジウムと体験型展示・ワークショップを開催、市が取り組む「多世代まるごと居場所づくり」と大学が始めた「知的障害者チアリーディング」の認知向上を図り、市民参加と後継者の拡大・育成に繋がった。



シンポジウムで地域共生に取り組む人たちが意見交換



障がい者アートの展示・ポッチャやバンブーダンスの体験会も開催

基本情報

代表地方公共団体	千葉県松戸市地域共生課
代表民間団体	学校法人日通学園 流通経済大学
他の連携団体等	一般財団法人 NHKサービスセンター
カテゴリ	高齢者福祉・介護／障がい者福祉／移住・定住
事業費	
めざすSDGsゴール	
事業化までの期間	松戸市と流通経済大学はそれぞれの取り組みを昨年度から開始、1年の準備期間を経て開催した

取組内容



知的障害者チアと大学チア部がコラボ



出演者と観客が一体で楽しんだステージ

この取組で解決した課題	自治体が行き届く「多世代まるごと居場所づくり」を具体的な活動内容とする地域社会における重層的支援体制の構築。大学が行き届く「知的障害者チアリーディング体験会」など地域に開かれたダイバーシティ活動。その取り組みに対する市民の認知度向上と市民の参加者・後継者の拡大育成を図った。
解決に向けた手法	流通経済大学と松戸市が、それぞれの活動に取り組んで1年あまり。市民の認知度向上のための取り組みが必要との課題認識を共有。大学では独自の取り組みとして本年7月に様々なダイバーシティ活動を紹介するイベント「海の日アートフェス」をNHKサービスセンターの総合演出・運営協力により実施。その実績を踏まえ、松戸市との共催で10月16日の「流通経済大学×松戸市 地域共生シンポジウム」を同NHKサービスセンターの総合演出・運営により実施した。

取組詳細

事業推進上の各団体の役割分担	流通経済大学と松戸市が共催し広報と参加者募集を行い、イベントの実施・運営をNHKサービスセンターが担当した。
地域関係者との連携方法	松戸市で共生の取り組みを行っている「多世代まるごと居場所づくり」馬橋地区実行委員会をはじめ、松戸市でたびたび体験会を開催しているNECポッチャ部、松戸市の中学校特別支援学級の方々など、多様な地域関係者の「連携強化」のために、今回のイベントへの出展、体験会開催、あるいはシンポジウム登壇という形で、市民へのアピールをしていただいた。
資金調達方法	資金は流通経済大学と松戸市が負担した。
資金調達方法の補足	
事業推進上の課題・工夫	市民が気軽に参加できること、参加してなにか「よかった」と感じてもらえること。そして「地域共生にたいして、何ができそうか」一つでもヒントを得て帰ってもらえることを目標にイベントの企画・演出を行った。体験型のワークショップをできるだけ増やし、ステージでのシンポジウムの前後にチア・ポッチャ・ダンスといったパフォーマンスを行い、会場参加者も一体感をもてる「参加型・体験型」の演出を行った。

担当者のコメント

優良事例応募項目

取組のポイント（3つの視点）	<p>①地方創生SDGsの視点 SDGsの大きな柱の一つである「地域共生」を目指し、市民の興味・関心の喚起・参加層の拡大・そして後継者育成といった課題に正面から向き合った。600人を超える学生・市民の参加によって、一定の訴求効果が得られた。（さらにシンポジウムの様子は配信予定）今度も継続して連携を深め、取り組んでいくことを確認した。</p> <p>②ステークホルダーとの連携 流通経済大学が市民に施設を開放するとともに、日ごろからの多彩なSDGsの取り組みをコンテンツとして充実させ、さらに客員教授である膳場貴子氏など著名人の登場により、注目を集めることができた。松戸市をはじめ松戸市中学校特別支援学級、さらに松戸市と関係の深いNECポッチャ部など多様な団体が参加し、それぞれの強みをアピールするとともに、松戸市が取り組む「多世代まるごと居場所づくり」の認知向上に寄与した。公共メディアNHKの関連団体であるNHKサービスセンターが、メディアで培った演出力・構成力を発揮し、市民にとって魅力的なイベントを創出できた。</p> <p>③モデル性・波及性 自治体と大学の連携で市民にアピールしていくという、どの地域でも可能な普遍性の高い取り組みであると同時に、メディア関連団体の参加により「ハードルの低い」「アトラクティブ」なイベントとしてインパクトがあり、今後の継続性も十分可能なスタイルとなっている。</p>
----------------	---